

# 明治大学

③

## 大学解剖

東京・御茶ノ水の明治大学駿河台キャンパス。高さ約120mの高層ビル「リパティタワー」がそびえる。食堂や体育館を備え、収容人数約8000人以上は大学設備として屈指の規模だ。

1998年当時、総合大の伝統校で高層校舎は珍しく、大学関係者が全国から視察に訪れた。今年「年間1万人の中学生や高校生が見学に来る」(野見山智道・経営企画部広報課副参事)。

「旧記念館」では、あまりの古さに「男子学生ですら他の建物にトイレを借りに行っていた」とOBは振り返る。伝統と裏返しの古くて汚い設備。良くも悪くも明大を象徴していた。

リパティタワーは変革の出発点にすぎず、新ハード戦略は進行中だ。今

# 「バンカラ」から「オシャレ」に

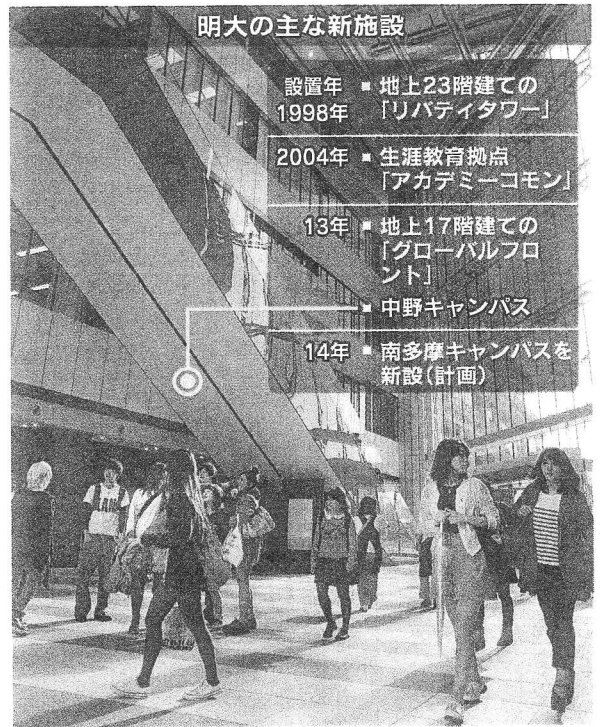
昔前に学生時代を過ごした世代には、看板がなければそこが明治大学とは思えない光景が広がっている。おしゃれな大学へ

「バンカラ」と呼び込む原動力だ。リクルート進学総研の小林浩所長は「キャンパスはイメージが変わった」

「代表的な卒業生は、白で彩られ、流行の服に身を包んだ女子学生たちはおしゃべりに夢中。一と語る。代表的な卒業生

## 広報戦略にも力

ハードだけではなく、ブランド力を高めるために、明大は2009年、「広報戦略本部」を設置した。学部や研究機関など全部署に「広報連絡員」を配置。教員の研究成果を対外発信できるように広報スキルを身につけるためのトレーニングを受講させた。



明大の主な新施設

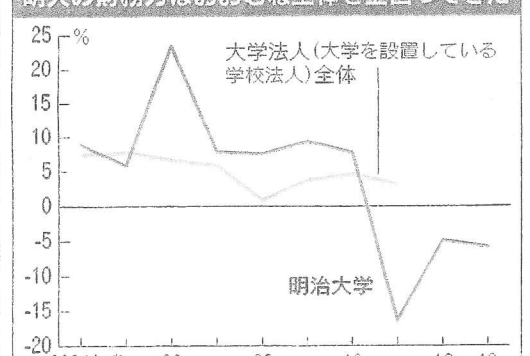
# 健全な財務、改革支える

本部を立ちあげる前に、日本私立学校年間10本程度だったアレックスは、今では7倍に増えた。今後、を学校法人全体の同比率の情報発信を増やす方針だ。

野見山氏は「教員や卒業生の活動を紹介します。1985年、学生の定員新しいサイトを開設するを一気に数百人規模で増やした。それに伴い入学金や授業料も増えたが、増収分は「いくつか大きな」(武田常勤理事)。

「収支を合わせられなければ100年後、200年後も残る大学にならない。今が踏ん張りどころ」(武田常勤理事)。

明大の財務力はおおむね全体を上回ってきた



(注) 明大と大学法人(大学を設置している学校法人)全体の帰属収支差額比率(企業の売上高純利益率に相当)。大学法人は日本私立学校振興・共済事業団まとめ、2012年度と13年度は予算ベース

などに、その貯金を充当することができた。コツコツ積み立てていたからこそハード刷新ができ、財務基盤も大きく悪化させずに済んだ。

## 収支に反動

ただ、足元は厳しい。11年度以降は3年連続で帰属収支差額はマイナス(12年度、13年度は予算ベース)となる見通し。教育・研究を充実させるため、教員を増やしたことが影響する。